

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371100413		
法人名	有限会社 古川商事		
事業所名	グループホーム ございしょの里 1号棟		
所在地	〒026-0301 岩手県釜石市鶴住居町第23地割21番地1		
自己評価作成日	令和6年11月10日	評価結果市町村受理日	令和7年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活気あるグループホームを目指してレクリエーションを取り入れたりと活動的に行っています。又、他のユニットの交流の場も増えています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年12月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は鶴住居町の中心部近くの住宅地に位置し、デイサービスを併設する2ユニットの施設である。事業所開設当初からの基本理念である「太陽の如く、あかるく、あたたかく、まるく支援する」を毎朝の申し送り時や毎月の職員会議で唱和・確認しており、職員間にしっかり共有され、日々のケアに活かされている。コロナ感染防止のため地域との交流がほとんどない状況にあったが、山神様祭りで地元の方と一緒に参拝したり、地元の伝統芸能である虎舞が事業所を訪問するようになるなど、徐々に地域との交流も戻り始めている。医療面では、市中心部のクリニックの訪問診療を月2回受けており、同クリニックは夜間の電話相談や往診にも応じるほか、看取りの協力も行うなど、十分な連携が図られ、利用者及び家族に大きな安心が得られている。また、外出を控えている中、職員のアイデアのもと、室内でのレクリエーションに工夫を凝らしているほか、敷地内でのお花見食事会やバーベキューなど、利用者に楽しんでもらえる工夫を重ね、常に利用者の立場に立った利用者が楽しく過ごせる事業所運営に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんど掴んでいない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
			2. 数日に1回程度ある		
			3. たまにある		
			4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに基本理念を提示している。 ミーティングで理念について職員で話し合い実践につなげております。	開設時からの基本理念である「太陽の如く、あかるく、あたたかく、まろく支援する」は、入居者を暖かく包み込むことを意識したものである。この基本理念をホール内に掲示しているほか、毎日の申し送り時や毎月の職員会議で唱和するなど、より具体的な基本方針も含め日々のケアに活かされているかを確認しており、職員間で共有され実践につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と山の神様祭りに参加したり、鶴住居祭りで虎舞いを見物したりと交流しております。	感染症予防のため地域との交流が十分でない中、今年も、山の神様祭りで地域住民と一緒に参拝したり、鶴住居祭りでの虎舞いの訪問などがあり、徐々に地域との交流が戻ってきている。一方、保育園や小中学校が大震災で高台に移転し、コロナ禍も加わり、交流が途絶え、学校側に今後の交流復活について声をかけているものの難しい状況が続いている。そんな中、近所の方が自宅で栽培した野菜を届けてくれ料理に使わせて頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の取り組みはしていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止のため、運営推進会議は、会議形式での開催は中止し、会議資料を委員や職員に配布し、書面による質疑をとっています。	コロナ感染防止のため、運営推進会議は書面会議での開催が続いている。委員には、地域包括支援センター職員、元民生委員、財産区委員、利用者及び家族代表並びに運営会社社長、管理者及び職員2名のほか、消防署職員と駐在所職員の11名がメンバーに就いている。消防署や駐在所の職員が委員となっていることは、防災や防犯の面で心強い。なお、各委員に意見を出してもらおうよう依頼しているが、あまり出されておらず、意見を出しやすいよう工夫することとしている。	コロナ感染防止のための書面開催はやむを得ない面もある一方、対面開催の場合、事業所の実態が良く伝わり、意見も出やすいほか、委員間のネットワークもでき、様々な支援も期待できるなど、会議の効果が高まります。そのため、例えば年度初めは、事業所近くの集会所などで開催し、年間計画等を説明するなど工夫を凝らし、順次対面開催の方向で進められることを期待します。

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員がおり、色々相談して協力関係を築いております。	地域包括支援センター職員が運営推進会議の委員であり、利用者の入退所に関する情報交換や相談など、頻繁に交流している。市の担当課とは事業所の事務員が日頃からつながりがあるほか、市主催の研修等にはケアマネジャーである運営会社社長が出席し、職員に研修内容を伝えており、市との連携が図られるよう努めている。なお、利用者には生保受給者がいるが、ケースワーカーが来所することは少ない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、利用者の見守りを行い、居室や玄関に鍵をかけていません。夜間のみ安全確保のため、玄関に施錠しています。	全職員をメンバーとする身体拘束等適正化委員会を3ヶ月に一度開催し、事例検討を行いながら、日常のケアに身体拘束がないか確認しているほか、職員研修も年2回定期的に行っている。スピーチロックについては、どうしても出てしまうことがあり、その都度、職員同士や管理者が注意している。なお、玄関の施錠は外に出ようとする利用者もいるため、18時から翌朝6時まで施錠している。また、ベッドセンサーは今年度は設置がない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフが法律そのものを詳しく学ぶ機会がもてないのが現状です。年2度ではありますが内部研修を行い、虐待があってはならないことを指導しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1号棟は、地域福祉権利擁護を利用されている方はおりません。全スタッフが専門的な外部研修を受けておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に、契約の締結や解約の理解・納得が得られるよう説明を行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム ございしょの里 1号棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱を玄関に設置しております。苦情や要望はありませんが、担当スタッフが敏速に対応するようにしております。	毎月、請求書と一緒に、写真が豊富な広報誌と居室担当の職員が利用者の日頃の様子を手書きで伝える「ございしょの里便り」を家族に送っており、生活ぶりが良くわかるとの感謝の声も寄せられている。面会や通院の付き添いで家族が来所するときにも、意見・要望を伺っているが、「看ってもらうことで本当に助かっている」との声がほとんどで、運営等に対する具体的な意見は出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで、職員からレクリエーションで使うもの(体操のDVD)が提案され購入するなど、職員の提案が反映されています。	毎朝の申し送りや毎月の職員会議の場で、職員の意見・要望を確認しているほか、管理者と職員とが1対1で話をする機会を設け、その際にも確認している。そうした中で、健康体操のDVDやいまや利用者に大人気の輪投げの購入、さらには調理スタッフからの圧力なべの購入要望があり、意見を取り入れ対応している。また、事業所敷地内で行っているお花見の際の食事会や屋外でのバーベキューの実施など、外出が難しい中、職員のアイデアを反映し利用者の大きな楽しみになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講しています。 内部研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの定例会に参加しています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心身の状況を把握し、本人が安心して過ごせる声掛けや傾聴に努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を希望される家族からも、意向を伺うように努めております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の基本情報を支援の参考にしております。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が、楽しみごとを一緒に楽しむように心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のお便りで本人の様子を知らせ、共に本人を支えている関係を築いております。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望があれば対応していきたい。	地元の理美容師が2か月毎に来訪しており、全員が利用して新たな馴染みの人となっている。また、今年も地域の伝統行事である鶴住居祭りの虎舞いの訪問があり、踊りを見学して楽しいひと時を過ごすことができた。家族の訪問はそれほど多くはないが、決まった人が1ヶ月に1回や2ヶ月に1回、定期的に訪れ家族の時間を持っている。なお、今年は自宅への外泊はいまのところない。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で助け合ったり支えあったりすることができるよう支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後継続的な関わりを必要・希望される方はいませんが、今後継続的な関わりを必要とする利用者や家族がおりましたら、対応していきたいと考えております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話を傾聴し、希望や意向の把握に努めています。	思いや意向を言葉で伝えられる利用者は、18人中10人ほどである。それ以外の利用者については、日頃の動作や仕草の特徴を職員間で共有し、声掛けやジェスチャーで思いをくみ取るよう注意深く対応している。要望は食事やおやつの話がほとんどで、テレビのコマーシャルを見て、「栗羊羹やどら焼きはまだなの」と話しかけてくる。利用者の希望で、お汁粉やホットケーキを一緒に作ったりもしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に本人や家族から話を聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、会議記録、申し送りノートに記録し、引き継ぎ時口頭で状況報告の上で申し送りしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、家族・本人の希望や意見を取り入れて作成しております	介護計画は、入居時は暫定計画として、それ以降、3ヶ月毎に見直しを行っている。モニタリングをケアマネジャーが行い、その内容を職員全員で確認するほか、職員全員参加でカンファレンスを行っている。それらの手続きを経て、ケアマネジャーともう一人の計画作成担当者がそれぞれの担当ユニットの計画を作成しており、その計画案を最終的にケアマネジャーが確認した上で、家族に意見を聞き同意を得て計画として策定している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム ございしょの里 1号棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、介護記録、申し送りノートに記録し、引き継ぎ時口頭で状況報告の上で申し送りしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内での、デイサービスやショートステイは実施していません。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を利用しております。	現在、釜石市の中心街にある内科、脳神経外科を専門とするクリニックの訪問診療を利用者全員が月2回受診し、同クリニックがかかりつけ医となっており、夜間の電話相談や往診にも応じ、利用者、職員ともに安心感と適切な医療を得られている。診療の結果は「ございしょの里便り」で家族に知らせており、家族の安心も得られている。歯科については、その都度の受診となるが、現在のところ定期的に受診している利用者はいない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないので、バイタルを測定し日頃と変わった時はすぐに病院受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要になった時は、その利用者の経過記録を報告する事や普段の様子(介護サマリー)を詳しく伝えるようにしています。早期退院に向けた計画作成はしていません。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	異常時は、かかりつけ医に連絡し医師の判断をあおぐようにしています。	今年も2名の看取りを行っている。以前は見取りは行っていなかったが、訪問診療を受けるようになって以降、訪問クリニックの支援を受け、看取りまで行うようになっている。ただし、入居時には利用者や家族に対し看取りの説明までは行っておらず、訪問診療を受けて重度化が明らかになった場合に、家族に状況を伝えて対応を相談している。現在のところ、看取りの指針はなく、職員に対する研修等も行われていない。	県内でも看取りを行うグループホームが徐々に増えており、重度化や終末期に向けた方針を利用者及びその家族と共有することは重要です。既に看取りを行っているが、入居時における説明や指針の作成、職員の研修など、重度化や終末期に向けた仕組みづくりを進められていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、職員がいつでも閲覧できる場所に置いております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年2回行っています。	ハザードマップでは浸水や土砂崩れの心配のない地域となっているため、火災想定避難訓練を3月、9月の年2回実施している。その他、昨年に引き続き、12月に夜間時の訓練を夜間勤務帯の18時から、夜勤職員が対処する形で実施した。車椅子利用者が2階に3名おり、2人の職員で2階から利用者を避難させることは大変難しく、時間を要することが大きな課題として改めて認識したとのことである。なお、食料品や防寒着など備蓄は十分にあり、自家発電機も1台備えている。	災害時の対応策として、直ぐ駆け付けられる近隣に居住する職員の対応や近隣住民の支援なども考えられます。しかしながら、車椅子利用者3名を含む2階に入居する15名を、階段で1階に降ろすのは容易なことではないことから、今後、防災の専門家である消防署に相談する等具体的に対応策を検討し、利用者の安全・安心の確実な確保を図られていかれることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや誇りに配慮し、普段から言葉に気を付けています。言葉使いや対応について、職員間で声を掛け合って直すように取り組んでいます。内部研修を行っています。	利用者各自の誇りやプライバシーへの配慮は、事業所の基本方針にも定められており、利用者への声掛けは必ず「さん」付けとするなど、丁寧な言葉使いを心がけている。居室に入る際は必ずノックをするほか、トイレ誘導では他の利用者に気づかれないような声掛けをしている。また、クロスワードパズルや折り紙、塗り絵、裁縫など、本人が得意とする活動が続けられるよう、必要な支援を行っている。なお、職員研修も年1回、運営会社社長を講師として開催し、理解を深めている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とゆっくり話をしています。服装、食事等で、利用者に対しては見守りの中で、自由にさせて支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望が実現できるように意向を伺っておりますが、全て希望に答え切れない事もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に任せております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望に任せています。 希望のメニューを聞いたり、献立に反映されるように支援したり、後片付けを一緒に行っています。	利用者の一番の楽しみは食であり、献立は調理スタッフと職員で作っているが、基本は利用者の要望に沿ったものとしている。アウビご飯やうな重など、利用者の食事への期待は大きい。以前は回転ずしなど外食にも行っていたが、大震災、コロナ禍と続く中で、外出は控えている状況にあるため、今はその分、食事には意識して工夫を加えている。また、利用者が、野菜の皮むきや片付けを手伝ったり、お菓子を一緒に作ることも楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況や咀嚼能力に応じた献立に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け誘導で行っています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便・尿の回数チェックを行っております。声掛けで良い方・見守りが必要な方、積極的な関わりが必要な方、それに合わせた排泄支援を行っています。	現在、布パンツ利用が8名、リハビリパンツ＋パッド利用が8名、オムツは寝たきりの2名だけとなっており、ポータブルトイレを夜だけ使う利用者が2名いる。ベッドセンサーの設置はない。自分でトイレに行ける利用者が多いが、必要に応じ排泄チェック表をもとに、適時の誘導も行っている。失禁時には周りに気づかれないよう、さり気無く居室に誘導し、更衣している。なお、良く動く利用者がおり、履物等に鈴をつけ音で職員が気づくよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無の把握に努めています。飲食物の工夫や運動の働きかけも行っています。一人ひとりの状態で薬を使用しているなどしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、利用者の自由に希望がない時は3日に1回にしています。入浴中は、楽しく気持ちよく過ごしていただける会話を多く、発言を引き出せるよう心掛けています。	原則、週2回、3日に1回以上、午前中の入浴としている。入浴を拒否する利用者はおらず、早く入りたいという利用者が多い。1号棟は一般浴槽、2号棟は足を伸ばしてゆったりできる大型浴槽となっている。2人体制で入浴介助が必要な利用者もいるが、基本、職員と1対1になるため職員との会話を楽しんでいる。会話の内容は、やはり食べ物の話題が多い。また、季節を感じられるよう菖蒲湯や柚子湯を行ったり、夏の暑い日には希望に応じてシャワー浴もできるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時に、使い慣れている物を持ち込んでいただいております。昼寝時間や就寝時間は、利用者に任せています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り服薬を実行(ホーム管理)し、注意を払っている。服薬リストを介護日誌にセットし、職員全員が目を通すように努めています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ごさいしょの里 1号棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	休憩室で歌を唄う利用者それぞれ好きな事をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、希望により日常的な散歩(施設中庭)を行ったり、施設の庭で花火やスイカ割、バーベキューをしたりと、楽しんでいただいております。	コロナ感染防止のため、基本的に事業所の外に出ることは控えている。お花見は、事業所の前が桜で囲まれており、敷地内で食事会を兼ねて桜を楽しんでいる。外出があまりできない分、室内でのレクリエーションを工夫しており、輪投げ、ボーリング、お箸での豆つかみ、神経衰弱ゲームなど、利用者が退屈することがないように取り組んでいる。一方、今年も山の神様祭りに数人が参拝に出かけており、職員からは「少人数でも良いので一緒に食材の買物に行けないか」との声もあり、少人数での外出再開について考えていきたい、としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の預り金は、施設で管理しています。利用者が希望する時は、職員が同行するなど対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に手紙を出したいと言う利用者はおりませんが、家族に電話をかけたいという利用者には、職員がついて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、清潔が第一と考えております。快適に過ごしていただける季節の花を飾ったり、季節ごとの飾り付けを行い、その雰囲気を楽しんでいただいております。	ホールとキッチン近接し、調理中の良いにおいが漂い食欲を誘ってくれる。壁面には、利用者や職員による作品や季節を感じさせる装飾が飾られ、アットホームな雰囲気、利用者は皆にこにこ笑顔が見られる。ホール内は、大型温風ヒーターやエアコン、加湿器により1年中適温が保たれており、利用者はくつろいだ様子で過ごしている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂及び談話室に椅子を置いて、思い思い過ごす場所は確保できています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に、今まで通り使用していた物をできる限り使用するようにすすめ、利用者の好みに任せています。	居室の入口には、動物や鳥のネームプレートが飾られており、何とも可愛い雰囲気を出している。ベッドと椅子が備え付けになっており、利用者は衣装ケースやテレビ、位牌、家族写真などを持ち込んでいる。壁に好みの俳優の写真がいっぱい飾られている居室もあり、それぞれ居心地の良い居室となるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、トイレなどすべて歩行できる場所は、手すりを設置しています。又、廊下に、思い思い過ごせる場所も設けるなど工夫しています。		